press release

Masterpieces of the Pola Museum of Art

ポーラ美術館コレクション

モネ、ルノワールからピカソまで

From Monet and Renoir to Picasso

今、あなたに逢いたい……

ピエール・オーギュスト・ルノワール《レースの帽子の少女》
1891年　ポーラ美術館蔵

9月13日いよいよ開幕！

開会式情報、主要作品解説を追加しました。

会　　期：平成26（2014）年9月13日(土) ～11月9日(日)

会期中無休

開館時間：9：00～17：00
※金曜日は20：00まで
※入館は閉館30分前まで。
※9月13日（土）は10：00開場

料　　金：一般　　1,400円　（1,200円）
高・大学生　800円　（600円）
小・中学生　500円　（300円）
※（　）内は前売・20名以上の団体料金

・JR広島駅より約1km　・広島城より約400m
・市内電車（「八丁堀」で乗り換え）白島線で「縮景園前」下車約20m
・ひろしまめいぷる～ぷバス「県立美術館前」下車

名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒730-0014　広島市中区上幟町2-22　TEL（082）221-6246
http://www.hpam.jp/　FAX（082）223-1444

press release

Masterpieces of the Pola Museum of Art
ポーラ美術館コレクション
モネ、ルノワール
からピカソまで
From Monet and Renoir to Picasso

【開会式について】

下記の通り、「ポーラ美術館コレクション モネ、ルノワールからピカソまで」の開会式を行います。
報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。
※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

日時／平成26年9月13日（土）午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室 入口ロビー

1　開会の辞

2　主催者紹介・挨拶
・広島県立美術館　館長　越智 裕二郎（紹介・挨拶）
・公益財団法人ポーラ美術振興財団　ポーラ美術館　館長　木島 俊介（紹介・挨拶）
・中国新聞社　代表取締役社長　岡谷 義則（紹介のみ）
・中国放送　代表取締役社長　青木 暢之（紹介のみ）
・イズミテクノ　代表取締役　徳田 隆（紹介のみ）

3　特別協賛者・協賛者紹介
・株式会社メンテックワールド　代表取締役社長　小松 節子　様（紹介のみ）
・広島県信用組合　会長　吉田 貞之　様（紹介のみ）
・リベラ株式会社　美術館準備室　係長　植野 泰朋　様（紹介のみ）

4　企画制作者・企画協力者紹介
・TBSテレビ　事業局文化事業部長　高橋 一世　様（紹介のみ）
・株式会社テモアン　代表取締役　青山 民生　様（紹介のみ）

5　テープカット
・広島県立美術館　館長　越智 裕二郎
・公益財団法人ポーラ美術振興財団　ポーラ美術館　館長　木島 俊介
・中国新聞社　　代表取締役社長　岡谷 義則
・中国放送　代表取締役社長　青木 暢之
・イズミテクノ　代表取締役　徳田 隆

6　閉会の辞

司会／中国放送アナウンサー

（　内　覧　）

press release

Masterpieces of the Pola Museum of Art
ポーラ美術館コレクション
モネ、ルノワールからピカソまで
From Monet and Renoir to Picasso

【展覧会概要】

ポーラ美術館は、印象派を中心とした西洋絵画と、黒田清輝らの近代の日本の洋画や日本画、さらにアール・ヌーヴォーを中心としたガラス工芸、化粧道具、東洋陶磁など日本最大級のコレクションで有名です。本展では、ポーラ・コレクションの中でも、特に人気の高い、モネ、ルノワールをはじめとする印象派から、セザンヌ、ファン・ゴッホ、ゴーガン、ピサロなどのポスト印象派、さらにルドン、ローランサン、マティス、ブラック、ピカソなど20世紀の巨匠に至る、ポーラ美術館が誇る珠玉の名画72点をご紹介します。

クロード・モネ《睡蓮》1907年

ピエール・オーギュスト・ルノワール 《水のなかの裸婦》1888年

ポーラ美術館について

ポーラ美術館は、2002（平成14）年9月に神奈川県箱根町仙石原に開館しました。「箱根の自然と美術の共生」をコンセプトに掲げ、美術館の建物は地下を活用して、周囲の森に溶け込むような形をしています。
総数約9,500点におよぶポーラ美術館のコレクションは、ポーラ・オルビスグループのオーナーであった故鈴木常司氏が、40年余をかけて収集した美術作品を礎としています。コレクションの核となる作品は、モネ、ルノワール、セザンヌ、シャガール、ピカソらの19～20世紀の西洋絵画約400点です。その他、日本の洋画、日本画、東洋陶磁、日本の近代陶磁、ガラス工芸、化粧道具なども多数収蔵し、大変幅広いコレクションとなっています。

参考：ポーラ美術館公式HP

【展覧会構成と内容】

第1章
光の中へ　印象派の革新と影響

クールベ、コローなどの印象派の前の世代の作品からはじまり、印象派を代表するモネとルノワールの作品に見られる表現上の変遷を提示することで、その革新性を明らかにします。さらに、ボナールの存在を通じて、20世紀へと引き継がれる印象派絵画の系譜を示します。

クロード・モネ 《ジヴェルニーの積みわら》
1884年

第2章
躍動する色彩　ポスト印象派からフォーヴへ

セザンヌやファン・ゴッホらポスト印象派の影響を念頭に、20世紀初頭に出現したフォーヴィスム（野獣派）の画家たちをはじめ、おもに色彩をめぐって開花した革新的な表現に焦点をあてます。ヴラマンクのフォーヴ期の風景画にはじまり、マティスの室内の人物画やデュフィの音楽的なハーモニーを感じさせる作品など、固有色を離れた画家たちが色彩の調和のあり方を模索する様相をご覧いただきます。

ポール・シニャック
《オーセールの橋》1902年

第3章
造形の冒険　ピカソとブラック

ピカソとブラックに代表される20世紀の絵画表現の革新性を提示します。ピカソとブラックの交友関係から、独特の表現を生み出したローランサンの作品と、ピカソとブラックの絶えざる造形的探求をみることで、具象と抽象の間を行き来する20世紀絵画の造形をめぐるダイナミズムをご紹介します。

ポール・セザンヌ
《砂糖壺、梨とテーブルクロス》1893-1894年
※いずれもポーラ美術館蔵

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も**本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。**
※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。
※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。
※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

press release

Masterpieces of the Pola Museum of Art
ポーラ美術館コレクション
モネ、ルノワールからピカソまで
From Monet and Renoir to Picasso

【主要作品解説】

エドゥアール・マネ
《サラマンカの学生たち》 1860年

18世紀フランスの劇作家ル・サージュの小説『ジル・ブラース物語』（全12巻、1715-35年）の序文の寓話を題材としています。スペインの古都サラマンカへ向かう二人の学生が、碑文を記した石を発見し、一人は笑って去り、もう一人は碑文の内容通りそこに金貨を発見するという教訓的な内容です。後の印象派の画面を思わせる明るい風景と人物の衣装の黒色とのコントラストが目を引きます。

ピエール・オーギュスト・ルノワール
《レースの帽子の少女》 1891年

仕立て屋の父とお針子の母の間に生まれたルノワールは、13歳で陶器の絵付け師として働き始め、画家を志しました。この作品では、立体感のある帽子を巧みに捉えるなど、衣服の質感に対する鋭い感性が発揮されています。また豪華なレースの帽子をかぶる少女の優雅な佇まいや、赤味をさす頬に白く滑らかな肌が魅力的です。

ポール・セザンヌ
《4人の水浴の女たち》 1877-78年

当初、マネの影響を強く受けたセザンヌは、次第にそこから離れ、明るい色彩と堅固な画面構成による独自の画風を確立します。水浴図は、群像の構成や風景と人物の調和を探求するため、セザンヌが繰り返し描いた重要なテーマです。中央の身体をぬぐう女性を頂点にした安定感のある三角形の構図と斜めの筆致が構築的な画面をつくりだしています。

フィンセント・ファン・ゴッホ
《ヴィゲラ運河にかかるグレーズ橋》 1888年

1888年2月、パリを発ち、南仏アルルに到着したファン・ゴッホ。アルルでは、代表作として知られる多くの色彩豊かな作品を生み出しました。この作品は、アルルに着いて間もなく描かれたもので、アルルの陽光を彷彿（ほうふつ）とさせる明るい色彩と大胆な構図には、浮世絵版画の影響が感じられます。

【関連イベント】

講演会（広島県立美術館友の会共催）
演題：「モネからピカソ　色彩とかたちの展開」
日時：9月27日（土）13:30～15:00（開場30分前）
講師：岩﨑余帆子（ポーラ美術館学芸課長）
会場：地下講堂
定員：200名（先着順）※聴講無料

特別講演会（広島県立美術館友の会共催）
演題：「彫刻と印象主義」
日時：11月2日（日）13:30～（開場30分前）
講師：カトリーヌ・シュヴィヨ（ロダン美術館館長）
会場：地下講堂
定員：200名（先着順）※聴講無料

[講師略歴]
カトリーヌ・シュヴィヨ（国立ロダン美術館館長）

1988年－　グルノーブル美術館館長補佐
1990年－　オルセー美術館彫刻部門学芸員
1999年－　フランス美術館修復研究センター彫刻部門長
2003年－　オルセー美術館研究部長
2008年－　オルセー美術館彫刻部長
2012年－　ロダン美術館館長

美術講座
演題：「近代ヨーロッパ絵画に見る日本」
日時：10月18日（土）13:30～14:30（開場30分前）
講師：石川哲子（当館主任学芸員）
会場：地下講堂
定員：200名（先着順）※聴講無料

ギャラリートーク
日時：9月19日、9月26日、10月3日、10月10日、10月24日　11:00～
10月17日、10月31日、11月7日　18:00～
※いずれも金曜日
会場：3階企画展示室　担当学芸員
※入館券が必要です。直接会場にお集まりください。

ワークショップ「色と線ー光にすかして」
透明フィルムに描いた絵を重ねて1枚の絵を制作します。
日時：10月11日（土）13:30～15:00
講師：松尾真由美（広島市立大学芸術学部講師）
会場：地下講堂
対象：小学生高学年以上
参加料：無料
定員：20名（要事前申込）
準備物：風景・人物・静物など自分の好きな写真（コピー可）をご持参ください。
お申込み方法：お電話にてお申込みください。ワークショップ名、参加者名（保護者が付き添う場合は保護者名も）、年齢（子どものみ）、電話番号をお伺いします。
広島県立美術館　Tel：082-221-6246（9:00～17:00）
※当日は汚れても良い服装でおいでください。
協力：泉美術館

press release

Masterpieces of the Pola Museum of Art
ポーラ美術館コレクション
モネ、ルノワール
からピカソまで
From Monet and Renoir to Picasso

記念オペラコンサート「新たなる出逢いー画家・詩人・作曲家、そして作品」
日時：10月12日（日）14:00～15:00
出演：大城薫（ソプラノ）、柳清美（ソプラノ）、藤田卓也（テノール）、枝川泰子（ピアノ）
会場：1階ロビー
協力：ひろしまオペラ・音楽推進委員会
※申込不要、鑑賞無料

大城薫（ソプラノ）

柳清美（ソプラノ）

藤田卓也（テノール）

枝川泰子（ピアノ）

ウェブレポーター大募集
日時：9月19日（金）17:00～19:30
受付場所：3階ロビー
場所：3階企画展示室
対象：ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで本展のPRにご協力いただける一般の方
特典：実施時に限り、本展ご招待

映画「セラフィーヌの庭」
日時：11月3日（月・祝）13:00～、15:30～
会場：地下講堂
定員：200名
問合せ先：広島映画サークル協議会（美野）090-6846-5051
※本展チケット（半券可）の提示で割引があります。

【開催概要】

展覧会名称
モネ、ルノワールからピカソまで

サブタイトル
ポーラ美術館コレクション

開催クレジット
主　　催：広島県立美術館、中国新聞社、中国放送、イズミテクノ、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館
後　　援：広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHZ
特別協賛：メンテックワールド
協　　賛：広島県信用組合、リベラ

企画制作：TBSテレビ
企画協力：テモアン

問い合わせ先
広島県立美術館
〒730-0014　広島市中区上幟町2-22　　TEL.082-221-6246　FAX.082-223-1444
E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp（山本宛）
担当　学芸課　石川哲子　　事業推進課　山本恵子